

【マレーシア】

11-12月の市場動向トピックス

- 2021年11月の訪日マレーシア人数は、対2019年同月比99.8%減の100人であった。
- 2021年12月の訪日マレーシア人数は、対2019年同月比99.9%減の60人であった。
- COVID-19の拡大により、日本政府による上陸拒否、14日間の隔離・PCR検査受検等、査証の効力停止等の対象となっている。10月11日以降、ワクチン接種完了者のマレーシアから日本への渡航が許可されている。自国民の日本からの入国については、マレーシアへの出発3日前のスワブ検査と入国時のPCR検査、10日間の隔離及び隔離施設退出2日前のPCR検査受検等が義務付けられている。ワクチン接種完了者は、隔離期間が7日間に短縮され、条件を満たせば指定施設に代えて自宅隔離が可能になっている。

11-12月の主なプロモーション活動

- 11月15日～17日、マレーシアにおけるムスリム向け旅行業を主導する団体Islamic Tourism Centerが主催するWorld Islamic Tourism Conference 2021がハイブリッド形式で開催された。11月15日のセッションにおけるゲストスピーカーの一人としてクアラルンプール事務所が招待され、「ムスリムフレンドリーデスティネーションとしての日本」というテーマで講演を行い、約300人が視聴した。講演では、日本のムスリム旅行者対応の現況やJNTOの取り組みに加え、高山市、岡山市にご協力いただき、各市のムスリム旅行者の受入環境などについて紹介した。
- 「Ready Go Japan」をタイトルとしたランディングウェブページを作成し、11月19日～12月25日にかけて一般消費者向けのオンラインキャンペーンを実施した。自然風景やアドベンチャーなど、マレーシアにおいて興味関心の高いカテゴリーについて、5つのミニゲームを通じて知識を深める内容で、2,400人以上の参加があり、日本への関心を維持するための効果的な取組となった。
- 11月20日～21日にクアラルンプールでリアル開催された一般消費者向け旅行博「MATTA Fair 2021」に出展した。将来の海外旅行目的地としての日本への想起率を高めるために幅広い訪日旅行情報を提供し、約2,000人がVJブースに来場した。ブース内装飾の一部として日本地図を設置し、来場者が訪日旅行に対するメッセージを記載できるようにしたところ、「日本が恋しい」といったメッセージが多く寄せられた。来場者アンケートから消費者の海外旅行意欲は引き続き高く、旅行先も日本が1番人気となっており、訪日旅行ができない現在も訪日への関心が衰えていないことが感じられた。



World Islamic Tourism Conference 2021



5つのミニゲームを通じて日本の知識を深める消費者キャンペーン



2年ぶりにリアル開催となった旅行博 (MATTA Fair 2021)